

地形・地質

利尻島は長径 18km、短径 15km のほぼ円形の島で、中央に利尻山がそびえ立っています。利尻山は更新世に出現した火山で、標高約 1000m 以上は急傾斜の放射谷で刻まれ、標高約 400m 以下は扇状地と溶岩台地となり火山山麓をなしています。基底の地質は、新第三紀の堆積岩と火山岩でともに不透水層で、利尻火山噴出物は透水層とみることができます。

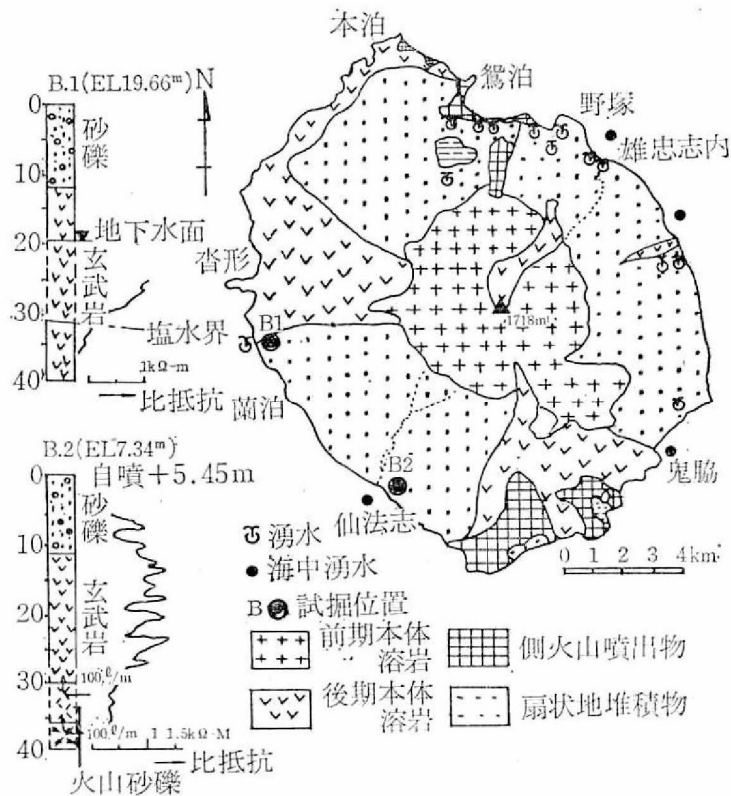
利尻島の地質層序表

時代	地層名	岩質その他
第四紀	沖積層	粘土, シルト, 砂および泥炭
	扇状地堆積物Ⅱ	礫, 砂, シルトおよび粘土
	後期火山噴出物	各種溶岩, 火山碎屑物
	扇状地堆積物Ⅰ	礫, 砂, シルトおよび粘土
更新世	放射状岩脈群	安山岩および玄武岩
	前期火山噴出物	各種溶岩, 火砕岩スコリア等
新第三紀	溶岩円頂丘群	安山岩円頂丘溶岩
	鴛泊層	珪藻質シルト岩, 砂岩
	港町層	安山岩質溶岩, 凝灰角礫岩, 火山円礫岩

(5 万分の 1 地質図幅⁽¹⁾を簡略化)

地下水

利尻島の東半分は湧水・河川・湖沼など地表水に恵まれていますが、西半分は地表水や地下水にも恵まれず無水地帯になっています。このため、農業開発を目的とした地下水開発や、住民の生活用水確保を目的とした調査が多く行われてきました。



利尻島の地質図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

<http://www.jagh.jp/jp/g/activities/committee/research/gwdb.html>（日本地下水学会）